

2026年8月30日（水）

老球の細道938号

8月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

28日に術後7か月を経過。体重を1キログラム戻すことがいかに大変かを痛感する。1キロ増えたと阿鼻叫喚する婆と嫁の話をダンボの耳で聞きながら人生色々、体重も色々。

リハビリとして実施している自宅周辺のウォーキングで、近所に住む同輩の老人の方から声をかけられた。「最近、身体が締まってきましたね!」。色々な見方があるものだ。

1・テレビから

「微力だけど無力ではない。平和の原点は人間の痛みをわかる心を持つこと」〈NHK ニュース：長崎原爆の日：被爆者吉田勝二さん〉：現政府の「非核三原則」の方針変換危惧と子どもたちへの「比較三原則」の徹底については微力ながらこれからも原則を貫きたい。

2・読書から

◆「相手の姿を思い浮かべてシャドーボクシングをしているかいけないかの違いがパンチの正確さの差になって出てくる」〈ジョー小泉著『ボクシングは科学だ』ベースボールマガジン社〉：バスケもボクシングも常に相手をイメージして練習することが大切である。フォームを作り、スピードをアップし、仮想敵を相手に対して臨機応変な動きを訓練する。

◆「本質的に健康な人間にとっては逆に病気であることが、生きること、より多量に生きることへの強力な刺激にさえなりうるものである」〈ニーチェ著『この人を見よ』岩波文庫〉：かつて「ザ・健康」と呼ばれていた私にとって、今回の病気は今まで以上に生きることへの執念を高めてくれた。ただ、生きているだけではなく、人のため、バスケのために生きたい。

◆「私は、ひとつだけ心がけていることがあるんだ。毎朝、澄んだ心でお天道様を見上げることさ」：〈畠山健二著『本所おけや長屋7』PHP文庫〉毎朝起きたらまず体重の増減をチェック。外に出て東側のお天道様を見上げ、今日も一日元気よく生きられることに感謝する。

3・新聞から

◆「いまを教えることから、平和教育は始まる。いまを知れば、子どもたちには“なぜ”が生まれる。答えを探そうとすれば、過去を考える。思考は未来にも向く。そう信じている」〈朝日：天声人語〉：戦争のニュースが日常化し、孫たちの眼、耳にもそのニュースがとび込む。孫たちは戦争に行かなかった私に色々質問する。まだまだ歴史を勉強せねばならない。

◆「私たちはあきらめない。つぶしてはならないし、必死になって抵抗する。正義は常にこれと対極にあるものに優越しなければならないという信念を貫く」〈朝日：ICC 赤根所長〉：福岡のドンではなくて世界のドンに付度しない日本女性もいる。わが信念を貫けるかどうか、我々「アウト老」の棺桶に片足を突っ込むまでのテーマである。

◆「一流と凡人との差は、日々の積み重ねと、細かな点も意識した努力の質の差だと痛感する」〈朝日：スポーツ・サッカー日本代表・谷川萌々子〉：毎回指導する子どもたちに事あるごとに、このシンプルな原理原則を話す。もちろん指導者の差も同じである。